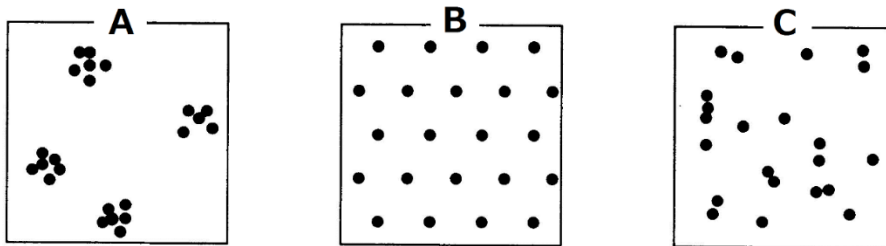


予習・復習シート 共通テスト生物 2学期 7回目

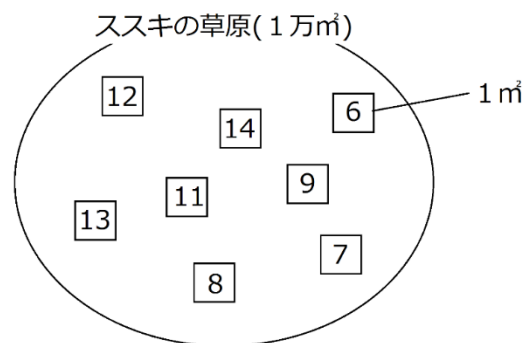
第43問 第2学期 個体群(その1)

問1 次の図(A～C)は、個体群内の各個体の分布を模式的に表したものである。各分布の名称を答えるとともに、生物例を下の①～のうちからそれぞれ選べ。ただし1つとは限らない。



- ① 遷移初期の地衣類
- ② 力関係が同等の個体が形成したなわばりの分布
- ③ アフリカの草原のシマウマ
- ④ 風に飛ばされてきた種子から発芽した草本
- ⑤ ハチやアリなどの社会性昆虫
- ⑥ 森林内のキノコ

問2 次の図は、あるススキの草原(1万 m^2)の模式図である。区画法によってこの草原に存在するススキの本数を推定せよ。ただし、図中の□は1 m^2 の枠を表し、中の数値はススキの本数を表している。



問3 個体数の推定に区画法を用いることができる生物はどのようなものか。20字程度。

【解答】第2学期 第43問

問1 A：集中分布…③⑤⑥ B：一様分布…② C：ランダム分布…①④

問2 10万本

問3 その場所から移動しない植物や固着動物。

第 44 問 第 2 学期 標識再補法

あるキャベツ畑において、飛翔中のモンシロチョウを 50 匹捕まえて標識して元に戻した。2 日後、再び飛翔中のトモンシロチョウを 60 匹捕まえたところ、2 日前に標識した個体が 5 匹含まれていた。このことからこのキャベツ畑には、モンシロチョウが (x) 匹生息していると推定できる。このようにして個体群の個体数を推定する方法を標識再補法というが、この方法をおこなうときは次の点に注意する必要がある。

〔注意点〕

1. 標識が脱落しないこと。
2. 標識した個体としない個体で捕まえやすさに差が出ないこと。
3. 一度目と二度目の捕獲は(ア)で行う。
4. 一度目と二度目の捕獲の間隔は適当な期間開ける。
4. 調査期間中に、個体群内で個体の(イ)は起こらない。
5. 調査期間中に、(ウ)が起こらない。

問 1 注意点 1 について、仮に標識が脱落してしまった場合、(x) の値はどうか答えよ。

問 2 注意点 2 について、仮に捕まえやすさに差が出てしまった場合、(x) の値はどうか。の文章中の空欄(ア～オ)に適する語句を入れよ。

標識したことで捕まえ(ア) くなってしまった場合、(x) の値は大きくなる。標識したことで捕ま(イ) なった場合、(x) の値は小さくなる。

問 3 〔注意点〕の空欄(ア～ウ)に適する語句を入れよ。

問 4 注意点 4 について、モンシロチョウとオオカマキリの場合、どちらの方が長い期間を開けた方がよいか。次の文章中の空欄(ア～オ)に適する語句を入れよ。

オオカマキリは(ア) して獲物を捕まえるので、移動能力が(イ)。したがって、標識した個体が個体群中に(ウ) のに時間が(エ) ため、モンシロチョウより期間を(オ) 必要がある。

【解答】第 2 学期 第 44 問

問 1 大きくなる。

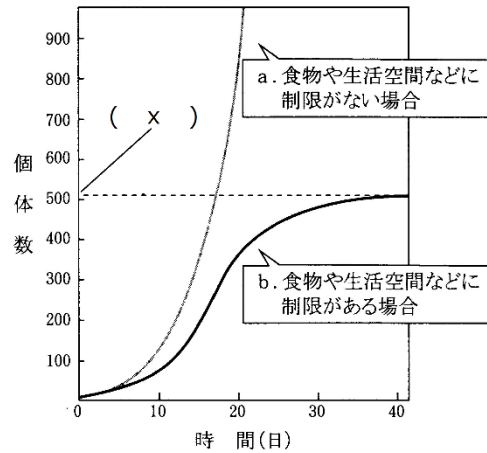
問 2 ア - にくく イ - やすく

問 3 ア - 同じ条件 イ - 死亡や出生 ウ - 他の個体群との間で移出入

問 4 ア - 待ち伏せ イ - 低い ウ - 均等に混ざる エ - かかる オ - 開ける

第 45 問－ 1 第 2 学期 個体群の成長(その 1)

A 右の図は、個体数が時間とともにどのように変化していくかを表したものである。これに関する以下の各問いに答えよ。



問 1 このような曲線を何というか。

問 2 曲線 a が b になってしまう原因を説明した次の文章中の空欄(ア～エ)に適する語句を入れよ。

個体数が増すにつれ「エサの奪い合い(= ア)」「生活空間の奪い合い(= ア)」「老廃物の蓄積」が起こり、これが原因となって出生数の減少・「イ」・「ウ」といった(エ)がおこるので

問 3 図中の(x)は環境によって変化する値である。この値の名称を答えよ。

【解答】第 2 学期 第 45 問－ 1

問 1 成長曲線

問 2 ア - 種内競争 イ・ウ - 死亡数の増加(寿命の短化)・成熟の遅れ エ - 密度効果

問 3 環境収容力

第 45 問－2 第 2 学期 個体群の成長(その 1)

B 右の図はワタリバッタの密度による変化をまとめた表である。これに関する以下の各問いに答えよ。

問 4 密度によって(ア)・(イ)のよう
に変化することを何とい
うか。

	(ア)相	(イ)相
集合性	(ウ)	(エ)
移動性	(オ)	(カ)
発育速度	遅い	早い
翅	(キ)	(ク)
後あし	(ケ)	(コ)
体色	緑・褐色	黒・褐色
卵の数	(サ)	(シ)
卵の大きさ	(ス)	(セ)
前胸背板	ふくらむ	平ら

問 5 表中の空欄(ア～セ)に適
する語句を入れよ。

問 6 ヨトウガ・ウンカ・アブラム
シは密度によってどのように変
化するか。それぞれ「低密度の場
合は・・・、高密度の場合は・・・」
というように答えよ。

【解答】第 2 学期 第 45 問－2

問 4

相変異

問 5

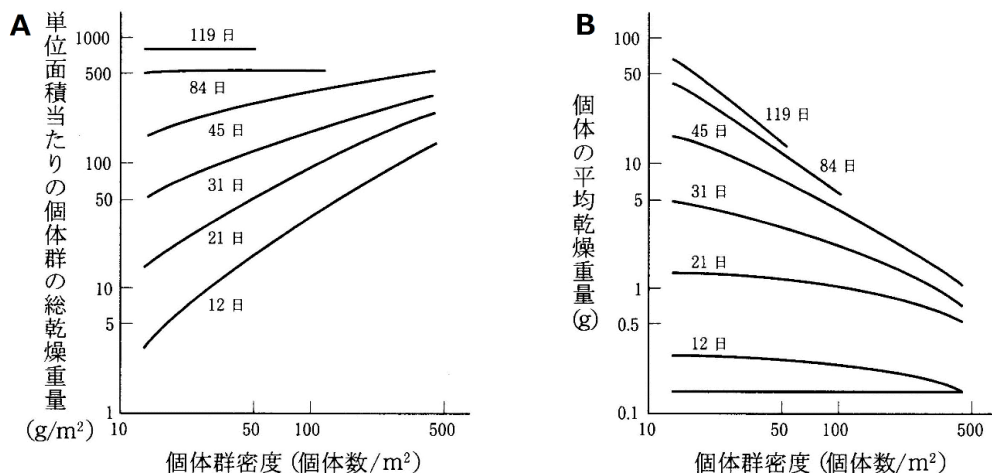
ア - 孤独 イ - 群生 ウ - なし エ - あり オ - なし カ - あり
キ - 短い ク - 長い ケ - 長い コ - 短い サ - 多い シ - 少ない
ス - 小さい セ - 大きい

問 6

	高密度の場合は	低密度の場合は
ヨトウガ	幼虫が黒っぽい	幼虫が褐色
ウンカ	翅が長い	翅が短い
アブラムシ	翅がある	翅がない

第 46 問 第 2 学期 個体群の成長(その 2)

下の図は、植物体の「密度と乾燥重量」の関係を表したものである。これに関する下の各問いに答えよ。



問 1 図 A を説明した次の文章中の空欄(ア～キ)に適する数値・語句を入れよ。

(ア)日～(イ)日は、個体群密度が(ウ)いほど「単位面積当たりの個体群の総乾燥重量」が大きくなる。これは、(イ)日までは、これらの植物体が(エ)中だからで、(オ)に従っていない。ところが、(カ)日～(キ)日においては、密度によって「単位面積当たりの個体群の総乾燥重量」に変化がない。つまり、各個体の(エ)がだいたい終わったからで、(オ)に従っている。

問 2 図 B を説明した次の文章中空欄(ア～ウ)に適する数値・語句を入れよ。

十分に(ア)した 119 日で比べるのであれば、各個体の平均重量×個体群密度の値は、個体群密度の大きさによって(イ)のはずである。

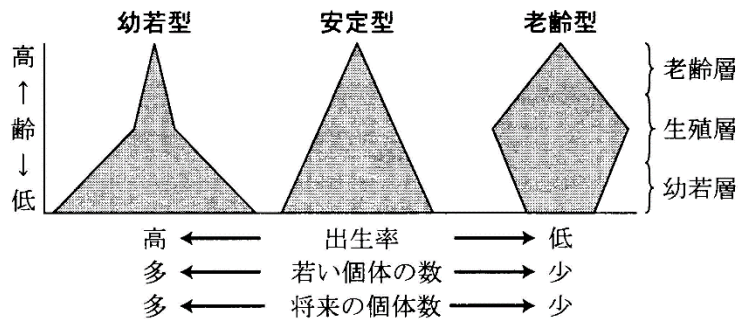
まだ(ア)中の 21 日で比べるのであれば、各個体の平均重量×個体群密度の値は、個体群密度が大きいほど(ウ)はずである。

【解答】 第 2 学期 第 46 問

- 問 1 ア - 12 イ - 45 ウ - 高 エ - 成長 オ - 最終終了一定
 カ - 84 キ - 119
- 問 2 ア - 成長 イ - 一定 ウ - 大きい

第 47 問 第 2 学期 個体群の構造(その 1)

次の図は、個体群の各年齢ごとの個体数を表したものである。これに関する下の各問いに答えよ。



問 1 個体群内の、各年齢ごとの個体数分布を何というか。また、これを表した上の図を何というか。

問 2 上の図を説明した次の文章中の空欄(ア～ウ)に適する語句を入れよ。

幼若型の個体群は幼齢の個体が多く、これらが生殖年齢に達すれば多くの子どもを産む。よって、将来この個体群は、(ア)。

安定型の個体群は(イ)と(ウ)がほぼ等しい。つまり、将来この個体群は、(エ)。

老齢型の個体群は、(イ)が(ウ)より低い。よって、将来この個体群は、(オ)。

【解答】第 2 学期 第 47 問

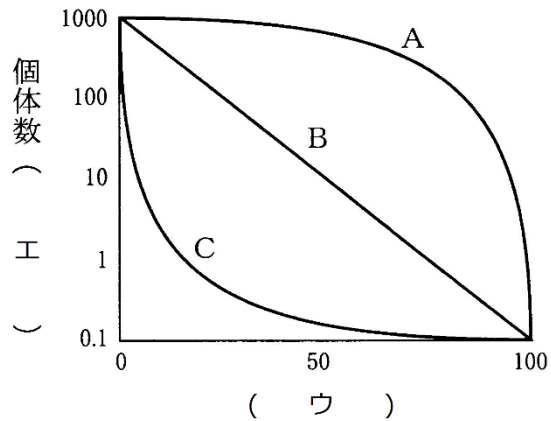
問 1 分布：年齢構成 図：年齢ピラミッド

問 2 ア - 個体数が増加する可能性が高い イ - 出生数 ウ - 死亡数
 エ - 個体数が変化しない可能性が高い オ - 個体数が減少する可能性が高い

第48問 第2学期 個体群の構造(その2)

問1 次の文章中の空欄(ア～エ)に適する語句を入れよ。

同時に出生した集団の個体数が時間とともにどのように変化していくかを記録したものを(ア)といい、これをグラフにしたものを(イ)という。横軸は(ウ)で、縦軸は個体数を表すが、目盛りが(エ)になっている。



問2 問1の図のA～Cの生物に関係が深いものを、次の①～⑩のうちからそれぞれすべて選び出せ。どれにあたるか。それぞれ答えよ。

- | | |
|------------------|-------------------|
| ① 大型の鳥類・哺乳類 | ② 小型の鳥類・哺乳類 |
| ③ 産卵数・産子数が非常に多い。 | ④ 産卵数・産子数が非常に少ない。 |
| ⑤ 海水中に産卵するもの。 | ⑥ 陸上に産卵するもの。 |
| ⑦ 淡水中に産卵するもの。 | ⑧ 各年齢の死亡率が一定である。 |
| ⑨ 保育が発達しているもの。 | ⑩ 保育はあるが、それが弱いもの。 |

【解答】第2学期 第48問

問1 ア - 生命表 イ - 生存曲線 ウ - 相対年齢 エ - 対数目盛

問2 A : ①④⑨ B : ②⑥⑦⑧⑩ C : ③⑤

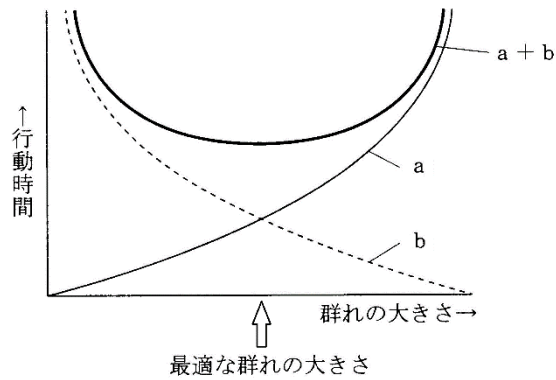
第 49 問－ 1 第 2 学期 相互作用(同種どうしの関係 その 1)

問 1 「群れ」に関する次の各設問(1～3)に答えよ。

設問(1) 群れを形成することによって得られる利点を 3 つ答えよ。

設問(2) 群れを形成することによって被る不利益を 2 つ答えよ。

設問(3) 下の図の $a \cdot b$ はそれぞれ何を表すか。



【解答】第 2 学期 第 49 問－ 1

問 1

設問(1) 食物の発見が楽・配偶者の発見が楽・天敵の発見が楽

設問(2) 伝染病が広がりやすい・資源(←配偶者・食物のこと)を巡る種内競争が激化

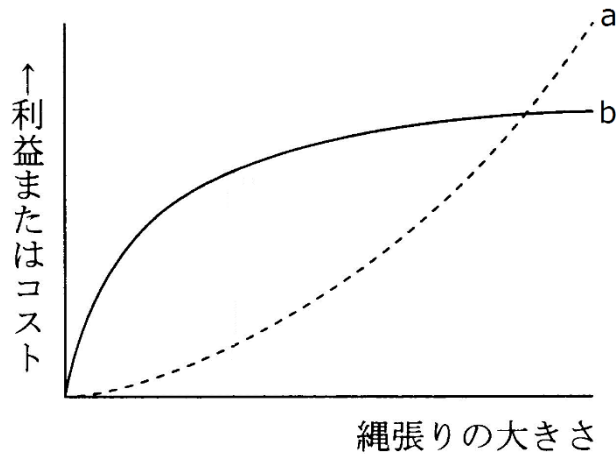
設問(3) a : 種内競争 b : 個体あたりの周囲を警戒する時間

第 49 問－ 2 第 2 学期 相互作用(同種どうしの関係 その 1)

問 2 縄張りに関する次の文章中の空欄(ア～カ)に適する語句を入れよ。

定住している個体が日常的に動き回る範囲を(ア)といい、(ア)のうち「他個体の侵入が排除され、個体やつがいに占有されている空間」を縄張りという。縄張りをつくる目的には(イ)を占有するためや、(ウ)の確保や(エ)を目的にしたものがある。魚の(オ)は前者の、シジュウカラなどの多くの(カ)は後者の縄張りをつくることが知られている。

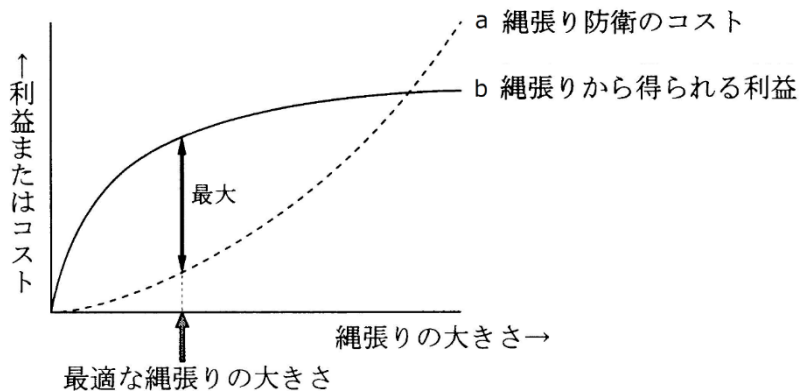
問 3 図中の a・b は何を表すか答えよ。また、縄張りの大きさとして最もよいのはどの当りかを図示せよ。



【解答】第 2 学期 第 49 問－ 2

問 2 ア - 行動圏 イ - 食物 ウ - 配偶者 エ - 子育て オ - アユ カ - 小鳥

問 3



第 50 問 第 2 学期 相互作用(同種どうしの関係 その 2)

問 次の文章中の空欄(ア～ソ)に適する語句・数値を入れよ。

ある個体Aから別の個体Bをみたとき、BはAとどのくらい同じ遺伝子を持っているかを数値で表したものを(ア)という。例えば、有性生殖を行う「 $2n$ 」の動物の場合で、Aを母親(または父親)、Bをその子どもとすると、BはAの半分だけ同じ遺伝子もっているので(ア)は(イ)である。つまり、Aは自分の子どもを2匹残せば、自分の遺伝子を(ウ)だけ、4匹残せば(エ)だけ残したことになる。また、BからBの子ども(Aの孫)を見れば、やはり(ア)は(イ)なので、AとAの孫との(ア)は(オ)となる。また、Aが姉でBが弟とすると、確率的にBはAの半分だけ同じ遺伝子をもっている(ア)は(カ)となる。ということは、姉が2匹の弟を世話して成体に育て上げれば、姉は自分の遺伝子を(キ)残したことになる。

ところが、 $2n$ だとメスで、 n だとオスになるような社会性のハチ・アリの場合は少し数値が違ってくる。まずAが母親でBが子どもの場合、Aから見たBとの(ア)は(イ)であるが、Aが父親の場合、子どもであるBは父親の遺伝子を必ずすべて持っている。従ってAから見たBとの(ア)は(ク)となる。また、Aが姉で、Bが妹の場合、Aから見たBとの(ア)は(ケ)となる。ということは、母親となって自分の子どもを2匹育て上げた場合、自分の遺伝子を(コ)だけ残したことになるが、姉となって自分の妹を2匹育て上げた場合、姉は自分の遺伝子を(サ)だけ残したことになる。つまり、「 $2n$ だとメス・ n だとオス」というような性決定を持った動物の場合、自分の遺伝子を増やすには、自分の子どもを世話するより、自分の妹を世話した方が効率が高い場合が出てくるのである。これが、(シ)を作る昆虫、すなわち社会性昆虫が進化してきた原因であるらしい。

このように、「生物は、自分の子孫を残そうとしているのではなく、自分の持っている遺伝子を増やそうとしている」という説を(ス)という。オナガやカワセミ、そしてジャッカルなどは、前年に生まれた個体が縄張り内に残り(セ)となって妹・弟を世話するが、このような「親以外の個体による子育て(=ソ)」も(ス)で説明できる。

【解答】第 2 学期 第 50 問

ア - 血縁度 イ - 0.5 ウ - 1.0 エ - 2.0 オ - 0.25 カ - 0.5 キ - 1.0

ク - 1.0 ケ - 0.75 コ - 1.0 サ - 1.5

シ - コロニー(←「カースト制」としても意味は通るね)

ス - 血縁選択説 セ - ヘルパー ソ - 共同繁殖

☆ 血縁選択説は、センター生物では説明していないが、この第 50 問程度の内容は頭に入れておいた方が無難だろう。

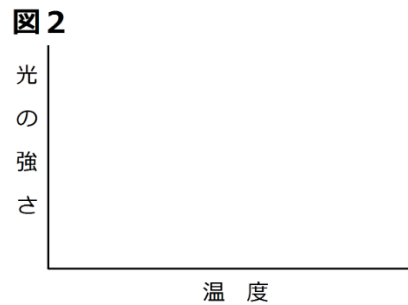
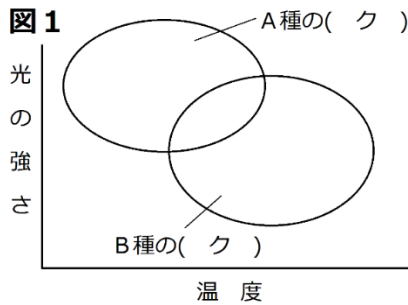
第51問 第2学期 異種どうしの関係(その1)

問 次の文章中の空欄(ア～ソ)に適する語句を入れよ。また、図2を完成させよ。

生物学では「食物・生活空間・配偶者など」をまとめて(ア)と表現する。同種どうしであればこれら(ア)を巡って(イ)が起こる。そして異種どうしでも、配偶者以外の(ア)を巡って(ウ)が起こる。このとき、「どんな食物を必要とするか?」「どのような生活空間を必要とするか?」など「必要とする(ア)とその使い方」を(エ)という。つまり、前記の内容を別の方法で表現すると、「(オ)の重なりが大きい異種どうしは、共通の(カ)をめぐる(キ)が起こる」となる。従って、逆に「(オ)の重なりが小さい異種どうしは、同じ地域で(ク)可能である」ということになる。

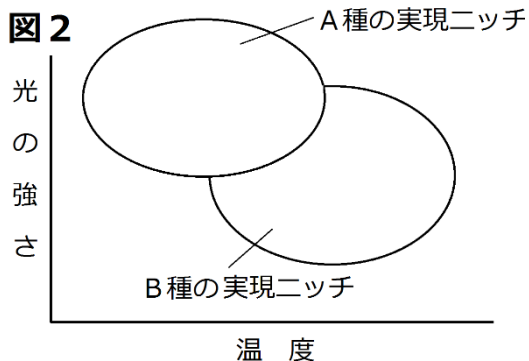
また、ある種が単独で存在するときに占有する(ア)を(ク)、他種と共存し、(ウ)の結果変化した(エ)を(ケ)という。下の図1は、ある植物A種とB種の(ク)を表している。仮にAの方が競争力が強いとすると、両者の(ケ)は図2のようになる。

なお、異なる地域に生息し、同じ(エ)を占めている種どうしを(コ)という。例えば、アフリカの(サ)・アジアの(シ)・シベリアの(ス)・北アメリカの(セ)・南アメリカの(ソ)は(コ)である。



【解答】第2学期 第51問

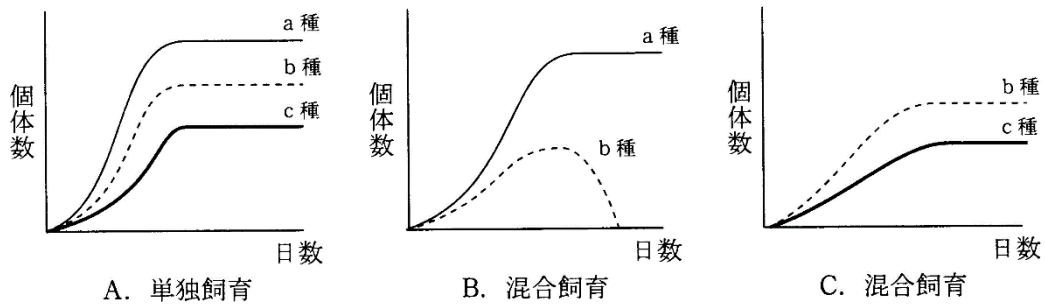
- ア - 資源 イ - 種内競争 ウ - 種間競争 エ・オ - ニッチ(=生態的地位)
 カ - 種間競争 キ - 共存 ク - 基本ニッチ ケ - 実現ニッチ コ - 生態的同位種
 サ - ライオン シ - トラ ス - ユキヒョウ セ - ピューマ ソ - ジャガー



第 52 問 第 2 学期 異種どうしの関係(その 2)

問 次の文章中の空欄(ア～ク)に適する語句を入れよ。

(ア)の重なりが大きい異種どうしは、共通の(イ)をめぐる(ウ)が起こり、どちらかの種が駆逐される。これを(エ)という。逆に、(ア)の重なりが小さい異種どうしは、同じ地域で(オ)可能である。下の図Aは、3種類のゾウリムシ(a～c)を、それぞれ単独飼育したときの(カ)である。図Bはa種とb種を、図Cはb種とc種を混合飼育したときの(カ)である。図Bからは、a種とb種は(ア)の重なりが大きく、(ウ)が起こり、b種が(キ)されたことがわかる。また、図Cからは、b種とc種の(ア)の重なりは小さく、単独飼育の場合に比べれば個体数は減るものの、両種は(ク)していることがわかる。



【解答】第 2 学期 第 52 問

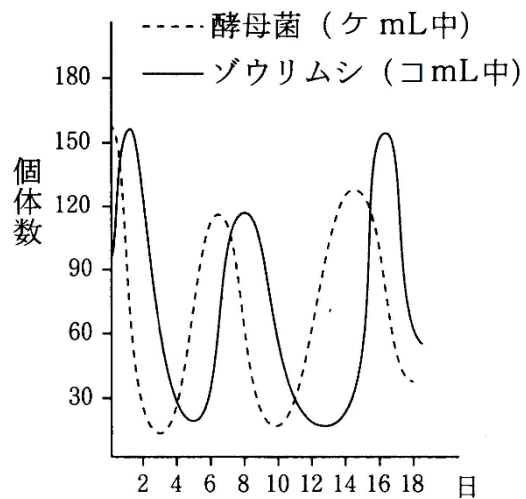
ア - ニッチ(生態的地位) イ - 資源 ウ - 種間競争 エ - 競争的排除 オ - 共存
 カ - 成長曲線 キ - 競争的排除 ク - 共存

第 53 問－1 第 2 学期 異種どうしの関係(その 3)

問 1 次の文章中の空欄(ア～)に適する語句を入れよ。なお、図中の(ケ)・(コ)には、それぞれ 0.1 か 15 のどちらかを入れよ。

2 種の個体群間における食う食われるの関係を(ア)といい、食う側を(イ)、食われる側を(ウ)という。多くの場合、(イ)はさらに高次の(イ)に捕食され、その(イ)はさらに高次の・・・というように、食う食われるの関係は鎖状につながっている。これを(エ)という。しかし、実際には(イ)と(ウ)は鎖状ではなく、複雑な網目状になっているので(オ)という。

右の図 A は、(イ)であるゾウリムシと、(ウ)である酵母菌の個体数の変動を表している。この図からわかるように、(イ)と(ウ)の個体数は(カ)に変動している。これは、(ウ)が増加すれば、それを餌とする(イ)が増加し、(イ)が増加することで(ウ)が減少し、(ウ)が減少すれば、これは餌が減ることであるから(イ)が減少する・・・という具合である。このように、(ウ)の変動が(イ)に(キ)するようになっている。また、一般的には、(ウ)の個体数は(イ)に比べ圧倒的に(ク)である。



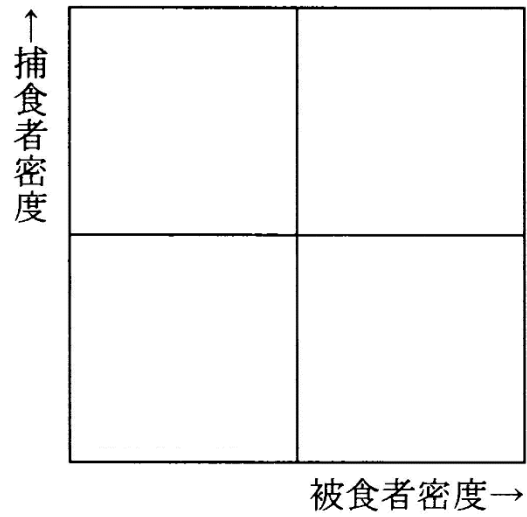
【解答】第 2 学期 第 53 問－1

問 1

ア - 被食者－捕食者相互関係 イ - 捕食者 ウ - 被食者 エ - 食物連鎖
 オ - 食物網 カ - 周期的 キ - 先行 ク - 多数 ケ - 0.1 コ - 15

第 53 問- 2 第 2 学期 異種どうしの関係(その 3)

問 2 下の、捕食者の密度と被食者の密度を表すグラフを完成させよ。



【解答】第 2 学期 第 53 問- 2

問 2

